

平成26年第1回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成26年3月11日（火曜日） 午前10時開議  
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	塩井早苗	議員	2番	原義裕	議員
3番	松村潤	議員	5番	神谷長平	議員
6番	半田晴	議員	7番	坂井孝次	議員
8番	大野貞夫	議員	9番	田部井健二	議員
10番	小沢泰治	議員	11番	岩崎律夫	議員
12番	小島幸典	議員	13番	立沢稔夫	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員

○欠席議員（なし）

---

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
堀井隆	副町長
大竹喜代子	教育長
飯塚勝一	総務課長
橋本喜久雄	企画課長
諸井政行	税務課長
吉田紳二	住民課長
相場利夫	生活環境課長
小島敏晴	保険年金課長
河内登	福祉課長
大舩一	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長
小島靖	都市建設課長
半田実	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
神山均	学校教育課長
半田康幸	生涯学習課長

---

○職務のため議場に参加した者の職氏名

小 倉 章 利	事 務 局 長
田 部 井 春 彦	書 記

---

◎開議の宣告

○本間恵治議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時02分 開議]

---

◎一般質問

○本間恵治議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

発言を許可します。

---

◇ 小 島 幸 典 議 員

○本間恵治議長 12番、小島幸典議員。

[12番 小島幸典議員登壇]

○12番 小島幸典議員 おはようございます。12番、小島幸典です。私の議員としての責務により、組織を持たない声なき声の町民の代弁者として、通告どおり一般質問いたします。

東日本大震災からきょう11日の午後2時46分で丸3年になり、死亡者1万5,884人の人々と、被災地の皆様と被災者の人々に心から鎮魂の念を持って祈ります。

また、一昨年(2011年)の6月に岩手県大槌町からのがれき受け入れ要請を環境省の検討打ち切り判断で、木の葉一枚の処理のお手伝いもできなかったことを多くの処理希望者の中の一人として被害者の皆様におわびと、これからの支援を誓って、北の空に向かって頑張ろうと声援を送り、きずなを深める努力を誓います。

被災地の経済復興も困難をきわめている中、国の借金は平成24年度で約1,057兆円を超えようとしています。県では約1兆1,000億円あり、また呂楽町にあっても約66億4,218万2,000円であり、町の人口2万6,000人で割ると約25万5,468円であります。これは、赤ちゃんから入院しているお年寄りを含めての計算でありますけれども、これからの町民の生活支援を考えたとき、箱物という公共施設の維持管理費用をどのように運営するか、方法、計画を検討することが大事で、建設検討委員会ではどんな意見が出されたか、お知らせ願いたい。

そういう流れの中で、まずは建設検討委員会で呂楽町中央公民館をつくるという検討をしましたがけれども、今話したように建設検討委員会ではその維持管理、ランニングコストについてどのような議論があったかお知らせしてもらえればありがたいと思います。町長にお答えを願います。

○本間恵治議長 金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 建設検討委員会の内容についてというご質問ですので、副町長が建設検討委員会の委員長という立場で過去11回携わってきましたので、副町長のほうから回答させます。

○本間恵治議長 堀井副町長。

〔堀井 隆副町長登壇〕

○堀井 隆副町長 お答えいたします。

建設検討委員会では、設計の段階から省エネに配慮した建物をつくる必要があるだろうということで太陽光発電、あるいは夜間電力等を活用した建物設計にしていってほしいのではないかと。

また、消耗品の交換等電球等のメンテナンスフリーのものをつくっていく。あるいは、一番経費のかかる人件費の削減のために、今3館で運営していますが、それを中央公民館1館に人を集中して経費を少なくする。また、少人数で管理できるような設計にしていく。部屋の配置ですとか、そういったものを検討いたしました。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私がこの議会で、実は平成24年12月議会では、この今話したランニングコストの削減を建設検討委員会で検討してくださいよという中で、副町長は大変重要な提案だから検討しますよというような答弁をいただいているのです。

私、建設検討委員会の資料を全部読んだ中では、具体的にこうしましょうよ、ああしましょうよというのはないのです。であるからこそ、きょうは議会で、これは声なき声の町民にも知ってもらうために、私はここに立っているのです。そういう中でこの呂楽町中央公民館の予算が盛られていますけれども、その中でランニングコスト、現在の3つある公民館の年間維持管理費、これは呂楽町公民館であると年間3,317万5,000円かかっていると知らされています。長柄公民館が1,965万5,000円、ヤングプラザのほうが3,120万円であって、合計で約8,400万円が維持管理費に使われていると。これを考えた場合に、新しい中央公民館の維持管理費の見積もりですか、これが出ていないと、これからの町政運営、または町民の負担の方法等を考えた場合、この辺の新しい呂楽町中央公民館のランニングコストをどのように見ているか、説明を願いたい。総額がどのぐらいかかりますよということがわかりますと、次のこれから町をどんなふう運営していくかということをおはみんな考えて、とにかくこれから後期高齢者の関係、それと少子化の問題が町には目の前にぶら下がっているわけです。そういうことで、できるだけみんなでいい生活環境ができるということをお願いしていますので、ひとつ町長、新しい中央公民館の維持管理費の計画、計算等をお知らせ願いたいと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今過去3館におけるところのランニングコスト、人件費も入っているわけですが、8,403万円ということで、これは平成23年度の決算ベースでの数字であるかなというふうに思いますが、これについては当然人件費も入っているわけですが、私は人件費を除いたところのラン

ニングコストというのは、先ほども副町長のほうから答弁申し上げましたけれども、初期投資はかかるであろうと思いますが、まさに今再生可能エネルギーを十分活用するということを考えれば、初期投資は多分のお金もかかるだろうと思いますが、それらのいわゆる太陽光発電等を利用することによって一般的な維持費、電気料、その他入るわけでありましてけれども、大きく削減になっていくのではないかなというふうに思います。

公民館ということになりますと、当然生涯学習活動の拠点の場ということになりますので、やはり社会教育指導主事、指導員の人的な配置も私は昨日の質問でもありましたけれども、重要な位置づけと考えていかなければならないというふうに思います。

今現在では3館に配置している職員についても、今後中央公民館が完成ということになりましたら、いわゆる生涯学習活動の拠点ということになりますので、そこに職員を集中して、そして現在の3館については必要最小限の中での人件費ということを考えていけば、多少でも削減の効果は期待できるのではないかとこのように思っております。

したがって、今後のランニングコストの推計ということのお尋ねであります。現在のところその推計値ということにははかっておりませんが、議員が言われますように十分ランニングコスト、人件費のコスト等の削減も努力目標の中で頑張っていきたいと、そのように計画をしていきたいと、そのように思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、いつも事細かに説明をされてありがたいなと思いますけれども、肝心なのはコストです。コストに全然触れていないです。

ということは、私のほうから一つ提案しますけれども、町長、今邑楽町公民館、長柄公民館、ヤングプラザと3つあります。こういう施設を今度は中央の一つに持ってくるということでしょう。であれば、今人件費を含めて年間約8,400万円かかっている流れの中で、3館が1つになるのですから3分の1に、町長は数字を言わないのですから私のほうが数字を言いますけれども、3つを1つにしたら3分の1でしょう。3分の1の経費目標は頭の中にあるのですか。大体でいいですからちゃんと数字を出してもらわないと、私のこれからの質問の中で、私のひとり舞台になってしまうのです。相談ではなくなってしまうのです。3分の1の目標を持てますか、お答えを。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、3館が1つになるので、単純に3分の1になるかということについては、そのようにはならないだろうというふうに思います。

と申しますのは、既存の施設について、それぞれ先ほどご質問がありましたように3館で8,400万円ほどということでありましてけれども、これを1つにまとめた場合に、その施設そのものの内容、大きさと言いますか、施設そのものの規模ということにも関係してきますし、あわせて先ほど申し

上げましたけれども、より充実した生涯学習活動を進めていくということになれば、人件費もふえるということになります。

したがって、単純に3分の1になることが理想であるかもしれませんが、私はかならずしもその数字が3分の1ということ、限りなく近くになるように努力はこれは努力義務として行っていかなければなりませんけれども、数字ということで申し上げることはちょっと無理かなと、そんなふうに思います。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、物をつくるには必ず計画というのが必要なのです。泥縄ではいきません。そういう中で、もう一つ。では、町長、これ教育関係にも入ってくるけれども、要するに大体どのぐらい年間の経費を見込んでいるのですか。

だから、私はランニングコストも建設検討委員会で検討してくださいよと、平成24年12月の議会で言っているのです。これは、町長は多忙でいろいろ勉強も大変だろうから副町長でも誰でも、町民にこういう考えですよとアピールしてもらいたい。極端な話が、人間だってそうでしょう、3館でやっているものを人間が1館なら極端な話が3分の1で済むわけです。であれば、年間の8,400万円ではなくて5,000万円前後に抑えるように努力するとか、そういう答えがあっているのではないですか。できてみなければわからないよなんて、これは大変なことなのです。

では、倍に大きくなったからって人間を20%ふやしますよと、そうなった場合は経費だってふえてしまうわけでしょう、人件費が。ちょっともう少し町長、綿密に、優秀な人がいっぱいいるのだから、課長が。その辺の計算をしてくれよと。

では町長、今度は設計をやる段階にあっては、見積もりしているわけでしょう。7,000万円だ、7,500万円だと。何で、それだけそういう見積もりができて、今度は今言ったように維持管理費の見積もりができないのですか。

だから、行政の執行部としてどんなふうに。私は、だから極端に言えば3つが1つになるのだから3分の1でいいのではないかというのだけれども、そうではないよと、建物が大きくなって、電気だって大変かかりますよと。それが20%、30%になるよとか、そういう計算が何でできないのですか、その辺の一つの目標値を置いてもらいたい。副町長でもいいですよ、その辺の目標をお願いします。そうすれば検討できるでしょう。

○本間恵治議長 堀井副町長。

〔堀井 隆副町長登壇〕

○堀井 隆副町長 お答えいたします。

今の3館体制の中で、小島議員がおっしゃるとおり8,400万円ばかりの経費がかかっております。この内訳というものは、純粋な管理費については2,580万円程度です。それに臨時職員の経費等を含めると3,900万円ほどかかっております。それに、さらに正規の職員がいるわけです。正規の

職員の4,400万円程度を足して8,400万円ということでございます。

今の邑楽町公民館が今度計画を予定している十五、六億円の中で、できても3,000平米ぐらいかなと思いますと、約倍の施設が整備されるわけです。その中で今現在邑楽町公民館では、純粋な管理費として人件費を全て除くと1,000万円ちょっとの経費でございます。臨時職員の人件費を入れますと1,660万円、倍の建物だから単純にその倍にしますと約3,200万円です。ただ、この経費をいかに少なくするかというのが課題だと思います。先ほど言った設計の段階で採光ですとか太陽光ですとか、夜間電力ですとか、そういったものを使っていかに少なくするか、その目標値を示せということですけども、その目標値については設計の段階で十五、六億円でどういう建物ができるかという段階にならないと出ないというのが、正直なところでございます。

なお、正規の職員4,400万円かかっていますけれども、この職員を中央公民館に集中して、新しい建物ができますと、また職員を雇って、新しい建物をやるというのが普通ですけども、それをなくして3館の職員を全部集めて、できるだけ人件費の抑制に努めたいと思っています。その4,400万円が減るかと申しますと、正直減りません。社会教育は建物をつくったら建物で満足するのではなくて、それからの活動が重要になってくると思います。特に少子高齢化、町づくりをみんな支えなくてはならないという教育を推進していかなくてはならないと思いますので、正規の職員の給料分は減らないというふうに計算しております。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 本当にわかりやすく行政のほうの立場の説明を受けて、こういう一つの目安というのですか、今副町長が言われたように3,320万円ぐらいだと提案した中での流れ、これいいと思います、これで。

それから、何をやらなくてはならないか。きのうも多くの議員が少子高齢化の提案、疑問を行政側の皆さんに改善提案みたいな、こうしたらいい、ああしたほうがいい、どうしようと思したと思うのです。その中で、私も今副町長が言われたように、教育施設の流れの中では本当にみんなが使うことによって、これ確かに電気一つとっても、例えば夏に快適な活動をするのにはこれから猛暑の流れの中でやっぱりエアコン、クーラー等も必要でしょうし、扇風機も必要でしょうし、それであれば、これ人間の生活の中ではやっぱり助け合いということがなければ、幾ら体が丈夫であっても心の病気、また心のものの考え方を人間の営みの中では常に人に何ができるか、そういう優しさをこの公民館でみんな学ぶことが大事ではないかなと。

そういう中で、私は今副町長が話された、暫定的にこのぐらいかかるよという、3,320万円ぐらいいいのではないかなというような一つの目標を持てば、私その場合町民参加型のこれを使う人たちが本当に町のために使っているのだよと。例えば元気であれば、国民健康保険を使わずに済むよと、そういう町民の生活の場、憩いの場、そして教育の場は大事です。もっとそのハードルを上を上げ

て、私が提案したいのは町民参加型のボランティアです。これは、やっぱり三つ子の魂百までもと言いますけれども、子供のうちからどうしたら町の施設を大事に、そしてみんなと勉強しながら、本当に自分で使うところは自分でお掃除したり、そして若い人たちがお年寄りの話を聞いたり、お年寄りが若い人たちの話を聞く。教室ではなくてもできる場、これはやはり学校教育の一つの目標をまた違う視点で持ってもらいたい、そういうボランティアの組織をぜひ学校の中で、これはあくまでもボランティアですから強制ではなくて、募集でも提案でもいいのですけれども、教育長、ぜひこの辺の教育を含めて、町の経費の援助する、そういうことを考えてもらえればありがたいと思いますので、ぜひ小学生の低学年からそういうボランティアの取り入れを私は提案しますけれども、教育長、その辺の考え方はどう思いますか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

最近本当に人と人との関係が壊れてしまったような事件がたくさん世の中に起こっておりまして、心を痛めているところです。社会教育、生涯学習、そういうものをやっていく上で、またもちろん学校教育の上でも、まず前提となる大事な要素は、人と人との心がこうつながってやっていくということが大事だなというふうに常々感じております。そのボランティアということ考えたときに、先ほど来話のありました公民館建設に関して経費を抑えるという点でも、一つ利用団体や地域のボランティアの活用があると、多少の経費削減にもつながるかなというふうに思いながら、先ほどのご提案をお聞きしておりました。

学校のほうでも、ボランティアについては委員会とか、特別な組織はありませんけれども、進めているところです。

中学校の例を一つ挙げさせていただきますと、呂楽中学校では年2回のボランティア活動と職場体験、野菜の栽培等を行っております。南中学校では年5回のボランティア活動、そして2年に1回のバザーと年に1回の職場体験を行っております。こういうことで、子供たちには小学校、中学校をあわせて人のために、社会のために働く。そして役に立つ、そういうこともやっている現状がございます。ボランティア活動は、本当にいいことだと私も考えております。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 教育長、ありがとうございます。

そういう流れの中で、よく幼稚園の運動会の話は私は12月にしたと思うのですけれども、公民館を使う人たち、そういう使う人たちも子供が来れば子供に誘発されて、子供が参加することによっておじいちゃん、おばあちゃんも参加するのです。そうすると、自然とこういう人間の営みの中では話が出てきて、学校で教えられることではなくて、やはり人生の歴史、その携わった人たちの、

大人のそういう音楽家なら音楽家でもいいです。舞踊家は舞踊家だっていいのです。そういう人たちと自然の中で交わることによって、みんなが元気に楽しく生活できる社会になると思うのです。そういう各種団体の使用料、ちょっと見せてもらってみましたけれども、かなり邑楽町公民館なんかでも団体が九十何団体もあって、そういう人たちが使うだけ、使わせて頂戴よ、頂戴よというのではなくて、自分たちも子供が一生懸命やっているのだから自分たちもお手伝い、今度は子供たちにお手伝いするよと、施設を使う人たちがそういう雰囲気になってもらえればと思います。それには、行政のほうやはりアプローチをかけなくてはならないと思うのです。何々団体さん、例えば月曜日、火曜日、週1回はきれいにお掃除してくれませんかとか、あとは町にいろいろ貢献した人たちの歴史、レセプションを開いて、そういう人たちにも協力してもらおうとか、そういうことを考えると、これからはそういう功成り名遂げて身退くは天の道ではなくて、退かないで、私はやっぱり本来名を遂げた人がどんどんそういうボランティア活動をできるような、やりやすいような町政をやってもらいたい。町長、その辺をどう思いますか。

要するに、各種団体の人たちが率先してボランティアというか、自分が自分の心だけではなくて人の心に喜びを与えたり、いい感じを与える、そういう団体の人たちの協力を得られるような方法を何か町長は考えてもらえればいいと思うのですけれども、その辺一言あったらお願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変大事なことだというふうに思っています。

町のほうでも、実は平成25年度から新たに多くの町民の皆さんのご理解をいただく中で、協働の町づくりということを発足し、現在4団体の皆さんにその活動に当たっていただいているわけですが、このこと一つとってみても、やはり地域での、またその方々の持っているノウハウをもとにして、町づくりをともにしていこうということで活動していただいているわけでもありますから、こういった形が公民館活動の中でも公民館を使用している方々の中でも、当然私は大いにあるだろうというふうに思います。新しく公民館ができるということに限らず、今利用している公民館の中でも多くの方が有効に活用していただいているわけですから、そういった協働して一緒に頑張っていこう、ボランティア活動もやっていこうということについては、私も議員が言われますように、大いにお世話になって進めていくことをこれからも推進していきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今町長から前向きな答弁というか、回答を得られましたけれども、町長が協働の町づくりの提唱をしていて、先ほど話した邑楽町の学校のボランティアのほうの関係は、これは教育長が話されたように、邑楽中学校では年2回のボランティア活動をやっていると。そういう流れの中で、今町長が話された協働の町づくり、これをセットにすれば、何をセットにするかと言いますと、一つの例をとってみますと、2日前か3日前のラジオで福島県喜多方市では教育特区を

申請して、学校に農業科を設置したと。そうすると地区の農家の人々と、要するに野菜生産を一緒にやって、非常に収穫と、またはふだんのそういう子供とお年寄り、地域の農家、そういう農家の人とのコミュニケーションがとれて、生活の中でのすばらしい喜びがあるよということを行政の中でも聞いていると思いますけれども、このラジオで放送したのですから。

そういうことを考えると、これ町長、教育長、やはり邑楽町でも、これからどんどん、どんどん経費がふえていくことに関して、これを学校の中でボランティア科をひとつ設置してもらえれば、また一歩前進するのではないかなと。

これは、形は違いますけれども、私たちが中学生のときは柔道が週1回の単位でありました。これは、町長は知っていると思いますけれども、中学校の裏の大塚先生が本当にボランティア的な指導をしてくれて、だからみんな仲よく柔道というスポーツで潤ったというか、心が通じ合う人にもなったことがあります。

そういう中で、福島県喜多方市ではやっぱり条例だとか法律をよく勉強しています。そういう流れの中で、きのうの議員も話されたように、ひとつどこかで突破口を開いていかないと町のこれからの経済、教育、産業、そういうものがこれからどんどん、どんどん衰退していってしまうと思うのです。それは、夢があるということは、やはり教育の一番大事なことでもあるし、楽しいことだと思います。そういうことで、ぜひこういうボランティア特区というのを設けて、それでやっていければ人材育成にも、また町の人たちの、いっぱいいますね、人材が。高校の校長をやった、私なんかの同級生では松本さんとか、あとうちの西のほうの源氏物語を研究している小倉さんとか、いっぱいいるのです。それに、このアプローチをかけて場所をつくってやらなければ参加できないのかなと、そういうことを私は一応提案したいのですけれども、そういうボランティア特区を学校で1年に2回ではなくて、週1回いろいろ周りの人たちとのコミュニケーションがとれるような方法をぜひやってもらいたいと思うのですけれども、教育長、その辺どうお考えですか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

ボランティアをやることは、本当にすばらしいことだというふうに思っていますし、ボランティアの心を育てる中でさまざまな社会的な場面で生きる力につながっていくのかなと、そんなふうには思います。ただ、義務教育の場合に教育課程がありまして、特区をとれば別なのですけれども、すぐに取り入れるということはなかなか難しい現状がございます。

それで、でもすばらしいご提案ということで、やっぱり子供たちにはそういう機会をふやしていかなければいけないというふうには思います。ちょっと、さっき例を挙げなかったのですけれども、そういう機会ということで長柄小学校では実際に農業体験をしましてジャガイモをつくって、全部の邑楽町の子供たちが給食で食べています。

また、ほかの小学校もやっているのですけれども、中学校では地域のボランティアでは自分たちが時々お借りしたりする施設をきれいに掃除をしたり、また施設の方が困っていることを力仕事をお手伝いしたりということで、年間2回やっております。

また、夏休みには自分の地区へ戻ろうということで、区長と相談して要望を聞きながら集会所や、その他の施設をお掃除したり、お手伝いをしたり。そして、中学2年生は職場体験、そして中学1年生は農家の方にご指導いただいて白菜の栽培をしまして、そして白菜を収穫して、それも全部町の子供たちが給食で食べます。

あと、おうら祭りの後片づけも本当に大変なので、中学生が一生懸命やってくれて助かっているところです。

また、南中学校ではロングV Sとって、同じように各施設の清掃やお手伝い、またウォークデーとって、いつも自転車で通学しているのですけれども、朝歩いて空き缶やごみを拾って、地域に少しでも貢献しようということで、年3回やっています。

それから、チャリティーバザーを2年に1回やっているのですけれども、その収益金につきましては欲しいという物にかえて福祉施設に寄贈するというので、子供たちは一生懸命頑張ってバザーで売上高を伸ばしたり、またウォークデーで拾ってきたアルミ缶をお金にかえて福祉施設に物で寄贈させていただくとか、そういうふだんの生活の中で結構邑楽町の中では社会参加やボランティア活動をやっているという現状がございます。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 ありがとうございます。そういうボランティア活動を子供のうちからやっている、本当に頭が下がります。

ちょっと調査の中で年2回だとか年3回というようなことなのですからけれども、これはやっぱり継続は力なりと言いまして、基礎的なことはもうできていると思います。でも、やっぱり私が提案したいのはそういう人たちが週1回とか、そういう流れの中でなった場合に、大人になってそれにずっと携わることにはなかなかできないと思います。そういうことを考えた場合には、これはよそへ出ていっても、そういうよその人に今度は親切にできたり、社会貢献できたり、そういうほうに発展すると思うのです。そうすると、今は税のふるさと納税というのができます。だから、スポーツ等を通して成功した人、そういう人たちはある意味ではそういう心が植えつけられてあれば、邑楽町は昔いろいろ世話になったところだからふるさと納税しようとか、そういうのが自然とこちらからセールスしなくてはならないと思いますけれども、しなくてもなれるような人材育成、そういうことを考えれば、ぜひこれ教育長、あした、あさってではなくて、やはり人間20年たたないと大人にならないのです。三十にして立つとって、30にならないと自立、人を使う人、自立する人、そういうのにはちょっと少ないなというようなことわざがあります。そういうことを含めて、もうでき

ないではなくて、やはり一步踏み出してもらいたい。それが、もし何かの障害でおくれる場合は私たちが一生懸命応援します。とにかくやってみてもらいたいと思いますけれども、その辺教育長、もう一度、気持ちでいいのです。10年後には何とかしますとか。であれば、3,320万円の経費が10年後には目標としてはゼロにしましょうよと。急にはなりっこないです。私は、急に若くならないです。

だから、これから生まれてくる子供たちにも期待する、そういうとにかく楽しい町づくり、自分が腹を切っても人を助ける、そういう教育が私は大事だと思うのですけれども、教育長、どうですか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

本当にふるさと思う子供、出て行って大人になってふるさとのために納税しようと思う心、それから本当にもうここに、邑楽町に住んでいることがすごく楽しくて、ずっと住んでいたいという、そのように思う心とか、子供のそういういい心、人と人とのつながりを求める心というのを育てるといことは本当に大事なことだなというふうに思います。

ボランティアをしながら、そういう心を育てるといことも本当に大事な要素だというふうに思っています。いろんな学習を通して幅広く学ぶことで、今小島議員がおっしゃったような心を育てていきたいなというふうに思います。

それには、具体的な手だてをしなければなりませんので、その具体的な手だてということでボランティアを核に据えて、これからも今やっているボランティアについて、少しでも広げていったらいいかなというふうに、お聞きしていて思いました。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 ありがとうございます。

一つ、これ有名な話があるのです。北里柴三郎という人は、福沢諭吉に本当にお世話になったと。そういう中で何年も無償で慶応大学医学部の立ち上げに努力したと、今度大きく新聞に出ていました。やっぱりそういう人を育てるといのは、誰かが刺激を与えるというか、感化するというか、そういうものが必要であって、だからお年寄りと子供と一緒に行動することによって、ちょっと野球の話をしてくれたので、ああ、そうかと、こう開眼するということもあると思うのです。

だから、そういうことを本当に我々みんなでお互いに成長するために、そういうボランティア活動を通してのこれから優しい人間に成長していけばいいかなと、そういうことを踏まえまして、ぜひ教育長にはこの事業の新しい、全国的にも県にでもとにかくアピールできるような、これは失敗してもいいのです。とにかく新しいことに挑戦してもらいたい、そういうことを希望して、第2問

に移らせていただきます。

第2問として、町財政にあっても税の滞納額は毎年少しずつこうふえたり、それとあとは保険料等がふえていって、みんな若い人たちの負担が多くなっています。そういう14歳以下の年少人口が少なくなり、あとはこの間これも新聞に出ていました、4人に1人がもう60歳以上ですよ。そういう流れの中で、松村議員がきのう本当に頑張っているいろいろ質問してくれましたけれども、私もこれも今言った財源を確保するには、要は町の封書がありますよね、こういう。これ見本、ちょっと私は口べただから物を持ってこないと、ちょっと説明が付きません。こういう封書で県ではちゃんと広告料を取っているのです。これ、無駄にどんどん町民に出すのではなくて、できる限りこういうこともありますよ、こういうことを皆さん利用してくださいよというような広告を出しているのです。

これは群馬県のものなのですからけれども、県では財源確保のために広告を記載しております。ちゃんと書いて出してあります。こういうことは、お互いにプラスになるのです。例えばちょうどうちの換気扇が壊れてしまったと、隣のうちのそうだ、電気屋に頼む、いや、つけてもらえてしまうからと、そういう一つのカatalogというか、宣伝をこう出してあるのです。

そういうことを考えると、ただ白紙でものを出すよりも、これ人助けです。ぱっと思って、隣のうちのお店が広告を出したら、こんなこともやっているのだと。身近だからすごく便利です。そういう流れの中で、この邑楽町で出している封書の枚数というのはどのぐらいありますか、ちょっと教えてもらえればありがたいのですけれども。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町で使用している使用枚数のお尋ねですけれども、今議員が示された封書、大きさが幾つかあるわけですが、細長い長形という封書については1万7,000枚、それからこのやはり同じような封書でちょっと大き目、長形の3という規格ですが、これが6万800枚、それから角封筒、大きいほうになるかと思いますが、それが6,000枚、その他で1,500枚、合わせて8万5,300枚ということを実時点で使用しているということになります。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 そうしますと、例えばきのう松村議員も財政を心配して、車等もきのうは質問してくれたと思うのです。町有バスだとか、ごみ収集車だとか。そういう流れの中で、76万9,600円も町に広告料収入があると。であれば、こういう封書について、今町長が話されましたけれども、とにかく1万7,000枚と。長いもので6万800枚、その他合わせると大体8万5,000枚も年間出せるということを見ると、これ本当に真っ白でこのまま出してしまうというのはもったいない話なので1年間限定、6カ月限定でもいいですけれども、とにかくもっと町民のためにもなるし、企業の

ためにもなるし、その辺のこういう封書に記載して広告料をとるといようなこと、町長はどう思いますか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 封筒に広告を希望する方々がおられるということが前提になるわけでありすけれども、その封筒を利用して町の財政にもつながる、それから広告として利用者の方々にもつながるということであれば、私は大変有効な手段ではないかというふうに思っています。

ただ、先ほど群馬県の例も出されましたが、県、それからこの近辺では太田市のほうでもやっているようでありますが、いずれも自主的な広告ということの申し込みは少ないようであります。したがって、昨日も申し上げましたが、やはりその封筒を活用していただきたい、有効に利用いただけませんかというような職員の外へ向かっての宣伝と言いますか、営業活動が中心になって、多少なりともその効果を上げているというのが現状のようでございます。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 これ、町長、トップセールスだなんて自分でこううたっていますけれども、自分で回ったのなら、もうこれは本当にたかが知れて、町長、体を壊してしまいます。

町には、農業団体、商工業団体、それと先ほど話した公民館に集まる名士がいます。

例えばロータリークラブだとか、ライオンズクラブだとか、そういう人たちにやはり商工会を通してでも、農業団体を通してでも、その辺のセールスなのです。大きな会社へ町長が行くのではなくて、そういう集まってくる人たちに協力を得て、それでできるだけとにかく子育て支援、また高齢者の通院というかタクシー券とか、そういう福祉に使うのです。であれば、とにかく町の財政に参加してくださいと、そういうお願い、要はセールスです。それが必要だと思うのです。ただシンボルタワーの上から見て、あそこのうちで広告を入れてくれるかな、ここのうちで広告を入れてくれるかなということではなくて、やはり各種団体が集まる場所からお願いするのです。それで、町長には大変うちのおばあちゃん、また子供が世話になったなということで、先ほど話したように北里柴三郎さんがお世話になったな、では何か恩返しできないかなと、人間の心というのはそういうことで回転するのです。ただ銭もうけではなくて、タクシー券をぜひ、目標を持たなくてはだめですよ。今の現状よりも30%ふやしたいとか、町長が熱く語っている第3子子育て支援でも、10万円と言ったけれども5万円ふやそうかなと、その辺のアイデアというか、人にもっともっと楽しんでもらおう、安心してもらおうと、その辺の心が大事ではないかなと思います。そうすれば広告とれます。私だって、みんなが出していいと言えれば出します。言葉はいろいろ選んで。

町長、その辺をもう少し、やっぱり福祉のほうにこういう広告をとって出すようなものの考え方、どう思いますか、町長。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 多くの方に協力をいただくというような要請をすべきではないかというお尋ねですが、現在担当のほうで町商工会等と町のホームページ、あるいは広報おうら等の広告掲載について話し合いをしております、間もなく開催されるのでしょうか。商工会の会議の中でも全会員の方々に周知徹底をしていただけるような、そのような協議、話し合いは担当のほうで進めているという状況もあります。

したがって、今後協力をいただく中で少しずつではありますけれども、そういった広告宣伝の実績、現在76万9,600円ほどの広告費をいただいておりますけれども、理解をいただければそういった利用される方、すなわち広告宣伝料の収入も多くなるのではないかとこのように期待をしているところであります。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今町長の説明によりますと、商工会等を通していろいろ仕事をしていますよということなのですが、では町長この76万9,600円の収入、この辺の収入の使い道をわかっていたら説明願いたいと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、予算を組む中で、特にその76万9,600円ほどの広告料がこの部分に使われているということの状況はありませんが、いずれにいたしましても予算積算の上では多くの町民の皆さんに少しでもサービスができるような、そのような予算編成をしておりますので、有効に活用されているというふうに思っています。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 どこに使われているかわからないということなので、本当によかったです。

なぜかと言いますと、これ一度筋道ができてしまうと、それから町長の性格として人がいいから、削るということはなかなか言わないと思うのです。これ、まだどこで使うかわからないと答弁がありましたけれども、私はラッキーだと思います。なぜかと言いますと、これからそういう広告収入云々ができた場合2分の1、半分は福祉に使いますよと、一つそういう目標を持ってやってもらいたい。これは、5年とか10年とか期限を定めていいと思うのです。ということは、社会情勢が変わってきますから。そういう中で、ぜひ町長、この広告収入を得た中の半分は子育て支援、それと独居老人のそういう先ほど話したタクシー券とか、そういうことで今度は町の業者も潤う、そしてまたみんなが希望が持てる、そういうことでどうですか、暫定的に収入の50%は福祉に使いますと、その辺の考えがあったら聞かせてもらいたい。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この広告宣伝料の2分の1を福祉予算にというようなお尋ねであります、特にこの平成26年度の予算の部分を見ますと、全体のうち、いわゆる議員が指摘されますように民生費は27.3%ほどの予算を見積もらせていただいて、現在審議をしていただいているところでもあります。このことを考えますと、やはり福祉予算のみならず他の教育費、衛生費、土木費等々いろいろ町民サービスが多岐にわたっておりますので、そういう部分にも配分をしていくということになります。したがって、限定をして今具体的にこういった費用にというお話もありましたが、特にそれを振り分けてということよりも、全体的な流れの中で十分配当していくことがよろしいのではないかと、うふうに思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、相変わらず幅の広い回答を出していますけれども、政策というのは幅が広くて、霧の中で要は漁なんかできっこないのです。

やはり、先ほども話したように、邑楽町中央公民館を新しくつくる費用だって暫定的です。前よりも高くなるよと、多くなるよということが数字で出ているわけです。それを今度は埋めるのは、やはり寝ていたり、赤ちゃんがいる家庭でも税金を払うわけです。そういう生活に困っているというか、困窮しているほうに幅広く、だから福祉というのがあるのでしょうか。その辺を考えないと、町長、大変な時代になりますよ、犯罪が多くなったり、人が育たなくなったり。

だから、要はもっと我々を含めて、いかに生活弱者に対して手を差し伸べられるか、そういうことではないですか。時間がだんだんなくなってきていますけれども、私はこの広告宣伝費、だって今までなかったのだから。これから得られるものは、やはり社会的な弱者に対して行政と議会と、それと教育に携わる人たちがいい環境をつくって、それでまたそれを受けた人たちは、金子町長はいい町長だなど、こういうネーミングを出すだけではなくて、まさかちゃん基金だとか、まかっ基金とか、そういうのをつくってもいいのです。高崎市、前橋市では、こういう施設がもう赤字で大変なので、みんな第三セクターに任せているのです。邑楽町だって、第三セクターに任せるようになってしまうかもしれません。だけれども、こんな小さい町で受けてくれるところがないでしょう。そういうことを考えれば自分たちで努力して、それで自分たちで人材育成する、そういうことが大事だと思いますので、きょうの私の一般質問は終わりといいたします。

とにかく教育長、よろしくお願いします。町長、よろしくお願いします。

以上で終わります。

○本間恵治議長 暫時休憩します。

〔午前11時15分 休憩〕

---

○本間恵治議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時30分 再開〕

---

○本間恵治議長 町長のほうから発言の申し出がありましたので、許可します。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど小島議員の質問に対して一部訂正をさせていただきますが、広告掲載料について、先ほど特定の事業には充てていない旨の発言を申し上げましたが、企画課の広報物発行事業及び情報関連事業の特定財源として充当しておりますので、ご理解を賜りたいと思います。大変失礼いたしました。

---

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○本間恵治議長 10番、小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 議席番号10番、小沢泰治です。きょうは議員の責務と言いますか、町民の負託を受けて議員になっているわけですから、この公の議場という場で一般質問、町に対する提言、あるいは町行政に対してのチェックという意味で質問をさせていただきます。

始まる前に、きょうは東日本大震災から丸3年がたったということです。俗に言う石の上にも3年ということですが、遅々として進まない復興、あるいは原発事故の收拾、そういうことを考えると非常に心苦しいところがありますけれども、国のほうでしっかり予算措置をして進めているということで、見守るよりほかないのかなと思います。

そんな中で、東日本大震災もそうですけれども、振り返ってみますと大正期の関東大震災、またカスリーン台風、伊勢湾台風、阪神・淡路大震災、新潟県の中越地震、そして3年前に東日本大震災が起きました。日本列島各地、世界もですけれども、そのような大きな自然災害が発生しているのが現実です。

また、この地域におきましては過日2月7日、8日に大雪が降りました。そして、14、15日にはまたそれに輪をかけて、それこそ豪雪に見舞われたわけです。その結果として、関東を中心として日本列島の太平洋側が非常な大損害を受けるような状態で、まちによっては孤立とか、そういうのも発生したわけです。この異常気象によるいろいろな大きな災害、私はこの群馬県邑楽町においては自然災害なんてくるものではないというふうに考えていまして、職業柄いろいろなリスクをカバーしてやる仕事をしておりますけれども、それを豪語していたわけですが、2月7、8日、14、15日にはあのような豪雪に見舞われてしまいました。けがをなされた方、あるいは物的損害を受けた方に対しましては、心からお見舞いを申し上げたいと思います。

それでは、通告に従いまして3項目上げてあるわけです、1番として、義務教育について。2番として、教育施設のこれからの活用について。3番として、大きな問題になっております町民無視

で強行する公民館ホール、町民ホールの建設についてということで質問をさせていただきます。

午前中につきましては、第1項目の義務教育について質問をさせていただきます。

私たちが、この議場でこのように執行側と議員が向かい合い、邑楽町の将来のためにいろいろ行政をチェックし、あるいは行政に対して各議員がこの公の場で一般質問をして、町、また全町民が豊かな生活が送れるように議員として日々努力しているわけです。一般質問をするためには下調べとかいろいろあります。質問者が多い場合は、執行側は大変かと思いますが、これが町民のため、町のためになるということで、ぜひお許しいただきたいと思います。

それでは、1番目の義務教育について。現在は、教育についてはゼロ歳児からとか言われておりますけれども、教育長にお聞きしたいのですが、義務教育、また教育委員会、文部科学省がかかわる教育についてはどのような状況になっているか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

文部科学省のかかわる義務教育ということですが、現時点では幼稚園、小学校、中学校、ここまでが文部科学省がかかわりますが、義務教育というと小学校、中学校というふうになっております。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 子育て、教育は100年の計だということですが、文部科学省がかかわるのは幼稚園、小学校、中学校。特に義務教育は小学校の6年間、中学校の3年間、合計で9年間です。その幼子からだんだん成長して思春期を迎えるころまで、この邑楽町で教育を受けるわけです。その中で邑楽町の趨勢と言いますか、これまで邑楽町がどのようにやってきたということを考えますと、最初の三村合併から始まって町になり、子供たちが少なくなり、教育に関してもいろいろ事業が発生してまいりました。

そこで、まず現在置かれている小中学校の児童生徒の数でありますけれども、少子高齢化が進みまして核家族化、あるいは職業の多様化等々いろいろ子供を産み育てる環境が厳しくなっている中で、邑楽町も御多分に漏れず子供たちが非常に少なくなっているのが現実です。

邑楽町の平成25年の中学校を先にお話ししますが、邑楽中学校と南中学校を合わせて生徒数が762名、小学校が中野小学校、中野東小学校、高島小学校、長柄小学校、合計で1,516人です。ピーク的时候はこの約2倍の児童生徒数が邑楽町にいたわけです。そういうことを考えますと、当初昭和32年ころ三村が統合して邑楽町になり、ますます邑楽町も発展してまいりましたが、その中であって住宅団地の造成等いろいろありました。人口もふえました。それで、昭和43年には統合中学校ができたわけです。その統合中学校ができたときが、中野、高島、長柄の3中学校がそ

のとき生徒数をどれほど抱えていたか、それを見ますと893名です。そして、次の年には残念なのですが、昭和44年には819名になってしまったわけです。

でも、819名は現在の邑楽町の邑楽中学校、南中学校の生徒の合計762名よりも大分多いのです。中野、高島、長柄教場ということであったときは893名いたわけですから、それから比べると大分少なくなっております。皆さんのお手元にグラフ等が配付されていると思いますが、ぜひざらになりながら邑楽町の教育、あるいは邑楽町の行政、あるいは財政について考えていただければと思います。

そんな中、中学校のピーク時が1,490名、それは昭和62年邑楽中と南中が分離しているときですけれども、2校合わせて1,490名、当時の各校の子供が邑楽中が968名、南中が522名です。そして、現在を見ますと平成25年が南中が258名、邑楽中、南中が分離したときの南中の生徒数と比べると現在は2分の1以下になっているわけです。邑楽中については、辛うじて半分にはなっていないのですが、504名です。その合計が先ほどお話ししましたように762名。

ですから、このような推移がありまして、その前にちょっと教育長にお聞きしたいのですが、邑楽中の3中学校の統合、そして邑楽中、南中の分離ということについて教育的な観点、あるいは子供たちの教育を受ける機会の中でどのようなことがあったかお聞きしたいのです。マンモス校、あるいは適正な規模の学校、また現在のように適正を欠いてしまった少数の中学校、部活動もできない、そのような中で教育長としてどのような認識をなさっているか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

ちょうどピークのちょっと前まで邑楽中学校におりました。1クラス45人が定数で、本当に人数が多い学校でした。それで、やはりなかなか一人一人に目配りができずに、多少荒れている学校という印象は否めませんでした。それで、分離の話が出て、もう少し適正な数、クラスの生徒数、そしてクラス数にしようということで、この動きがあったというふうに覚えております。

そして、今分離して邑楽中学校と南中学校の2つの中学校に分かれたわけですがけれども、現在は群馬県の定数が1クラスの人数が少なくなってきましたので、以前に比べると目が届く、そして一人一人に手を差し伸べられる状況が生まれました。ただ、ちょっと邑楽中と南中に人数のアンバランスが生じたかなというふうに受けとめております。

今現在では、部活動数が十分ではないという南中の現状もありますけれども、小規模校ということで運営が困難という状況はありません。そのように考えております。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 小ぢんまりした中学校ということでありますけれども、やはり子供たちが文武両道、それこそ体いっぱいいろいろなことを受けて成長していく上においては、私は邑中、南中に分離したときの生徒数ぐらいが、子供たちにとっても一番いいかと思うのです。競争心は湧いてきますし、また仲間づくりにしても多くの仲間、子供たちがいるわけですからできる。あるいは、先生にしても多くの先生方がいらっしゃって、いろいろな教育と言いますか、経験と言いますか、そういうものを味わうことができた。

けれども、現実には先生の数も少ないです。顧問の先生の関係上でできない部活も起きている。その現状を見ますと、教育は誰のためにあるかということを考えますと、邑楽町のためにあるのですけれども、またそれは各そこで教示を受ける、授業を受ける子供たちにあるのかと思います。表現は悪いけれども、私たちのころと比較しますと薄飼い、非常に1クラスの子供たちの数が少なくなっているわけです。ですから目は届きます。そういう中で、非常にいい教育はできるわけですがけれども、また先ほどお話ししましたように支障もある。その支障を解決するのが、私はこの時点に至っては、また邑楽町の現在置かれている人口問題もそうです。そして、特に少子化ということで子供たちの数が減っている、その中であっては早急に統合ということを考えて、子供たちのためにすばらしい学校経営をしてもらえればいいと思うのですけれども、子供たちは将来の宝ですから、やはり子供たちがどのように成長するか、その辺を見据えた中での学校経営、あるいは学校施設の充実等、あるいは統廃合もありますけれども、だと思っておりますが、教育長、今南中学校が236人、これが平成29年になると198人とかになっていってしまうのですけれども、そのときになっている何だかんだではだめなのです。

ですから、私は実態を見て、町のある種の首長ではないですけれども、ちょっとやることが早いのだよなんていうふうに言われるように、できれば子供が中心ですから、先生の立場云々ではないのです。学校が1つになれば校長は1人になります。あるいは教頭、学年主任、いろいろあると思いますけれども、数は減ります。しかしながら、まず優先すべきは子供たちのことだと思っておりますが、現在のこの全生徒数が減った中で教育長はどのようにお考えですか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

現在の南中学校の生徒数が平成25年度258名です。平成29年度になりますと243名で、減っていくということは事実あります。

そして、邑楽中学校と南中学校の生徒数のアンバランスは、先ほど申し上げたとおり。そして、部活の数も小沢議員のおっしゃるような職員数が足りないということも一つの理由で、少し南中のほうが少ないです。ということのアンバランスがあって、人数も減っていくという現状もあって、やはりこれは統合なり、再編なりを考えていかなければならないというところに来ています。

そこで、まず手始めに昨年度中学生と、これから入る小学生と、その保護者にアンケートをとって集約をしましたけれども、その中では児童生徒の回答で現状維持と学校再編という数がかかなり多くて、また保護者のほうも同じように現状維持と再編、再編ということはつまり統合をまだしないでという声がとても多かったので、少しこのまま様子を見ながら方向性をしっかり出していこうということ、今数の減り方、そして教育の内容的なもの、空き教室の問題、そういうのをよく考えながら、将来的には1つにしていかなければならないだろうなというふうな方向性を出しております。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 答弁ご苦労さまです。

私は、ちょっと考え方が違うのです。アンケートのとり方自体が、現在どのように置かれているのだ。過去どうであったのだ、そういうことを数字を入れて、あるいは今お配りしましたけれども、図柄、グラフ等を提供して、客観的に親御さん、子供たち、あるいは部活動においてはこういう支障があるのだ、先生の数が少なくてこういう問題があるのだ、その辺を入れてアンケートをとらなかつたらだめです。それは、経営側の判断で、先生にしてみれば校長はいたほうがいい、1人多いほうがいい、教頭も多いほうがいい、学年主任もそうだ、そういうのがあるのです。

だけれども、子供たちの置かれているそれ、それでこういう結果としてこうなったのだが、では今後どういうふうにかえたらいいか、そういうことでアンケートはとらなければだめです。基本的には、ぜひ客観的に事象がわかるようなアンケートのとり方、それをしなかつたらだめだと思いますので、そのアンケートに出てきた数値というのは本当の意味の現実を直視した中、全部を知り尽くした中の親御さんの回答ではないと思うのです。

ですから、私はこういう実際に出てきている子供たちの数とか、学級だとか、あるいはクラスの人数、そういうことを考えますと、やはり早急に真剣に取り組んで統合という方向に持っていければと思うのですけれども、教育長いかがでしょうか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 アンケートをとるときに示しました生徒数は、平成25年から平成34年までを推計した形で示したので、過去の一番ピークのとときにどのぐらいいたかという数はお示ししないです。

そういう材料がちょっと足りなかったというご指摘はあろうかと思うのですけれども、現時点の子供たちの考えと親の考えをまず参考にしたいと思ひましてとったアンケートということでご理解いただければと思うのです。

今の保護者の年齢から見ても、状況把握というのがもう難しい年代に入ってきていまして、昔は

こうだったけれども今はこうだという、かなり昔のことを言われても現状が理解できないのかなと  
いうところもありました。なので、平成25年から先の数字を見通してアンケートをとった次第です。  
以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 教育長は、邑楽町の学校教育、幼児教育、社会教育のかなめです。でありな  
がら、現在、今後どうなるからどうなるのだ、経営者ではないのです。現在がどうであって、過去  
がどういう道筋を歩んできて、今後邑楽町の教育にとってはどうあるべきかということを考えたら、  
アンケートのとり方は間違っています。

また、先ほどお父さん、お母さん方が実情がいろいろよくわからないとおっしゃいましたけれど  
も、わからないのは当然なのです。直接数値、自分の子供はわかります。あるいは、学校の友達ぐ  
らいは何人かわかる。全体像は親御さん、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんはわからないので  
すから。子供たちも。ですから、そういうのを提示して、掲示して、それでアンケートをとり、そ  
の結果として、ではどうするか。きっと、早急に統合したほうがいいというのが多くなると思いま  
す。

あなたの手法は、教育長の手法は、町長とそっくり同じです。自分にマイナスになることは表に  
出さない、そうではないですか。お答えをお願いします。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

まず最初にお答えします。自分のマイナスになることは出さない、これは私の意に反しておりま  
す。

それから、現状をどう打開していくか、先を見通して統合、または再編を考えていくというこ  
とが、これからの教育を考えていくときに大事かなというふうに思いました。もちろん過去をよく見  
て、そして現在を考えて先を考えるとすることは本当に大事なことだとは思っていますけれども、  
もうこの辺で具体的に統合、再編を考えていくべきだということで手始めにアンケートをやったと  
いうことで、この後段階的にその方向に向けて真剣に取り組んでいこうということで考えておりま  
す。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そういうことで、私が今お話ししたのとは違うということですので、ではそ  
ういうことにしましょう。

しかしながら、やはり一番は子供たち。それで、過去をどうのというふうにおっしゃいましたけ  
れども、では分離したときの南中学校に522人いらっしやいましたけれども、その辺がどうであっ

たか。適正な生徒数であったか考えてみてください、522人。邑楽中学校が968人。それで、現在が邑楽中と両方合わせて762名になっているのです。そういうことを考えたときに町長はどう思いますか。私は、早急に統合して子供たちが健やかに、また切磋琢磨して、そしていろいろな経験ができて、部活動にしてもいろいろやりたいことができる、部活動の数も多くなります。

ですから、ニーズに応えられるよう私は早く統合するのがいいかと思うのですが、いかがですか。

○本間恵治議長 暫時休憩します。

〔午後 零時05分 休憩〕

---

○本間恵治議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

---

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 午前中の分離したころの南中学校の様子、状況についてどう思うかということでございますけれども、昭和60年に邑楽中学校から南中学校が分離スタートしました。生徒数が451名、12クラスという記録があります。そして、標準的な学校規模というのは12学級から18学級と言われていきますので、標準的なクラスになる。大規模な大勢いたるところから標準的なクラス数になり、落ちついて学校生活がスタートしたというふうに聞いております。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今教育長からお話がありましたように、非常に理想的な中学校が誕生したということです。12クラス。それ以上多くも理想の範囲内なのでしょうけれども、お話を聞きますと、今の規模が非常に1クラスの人数が少なくなりながら、10ということですね。ですから、そのときの理想の最低よりも今は少なくなっているという状況ですから、ぜひ今後先ほどお話ししたように背景も入れながらアンケートを早急にとっていただいて、そうしたら先ほどのアンケートの回答をどちらが高いとか出るとお思いますので、アンケートをとらなくても、背景をお話しすれば教育長は現場にいたわけですからよくわかると思うのですけれども、ぜひお願いしたいと思います。

続けてよろしいですか。それでは、最初1番目が済みまして、2番目に通告の教育施設のこれからの活用についてということで進ませていただきます。

その前に、皆さんの机にお配りさせていただいた、このグラフの関係なのですが、ちょっと指摘を受けまして、これが何を意味しているのかわからないということのお話がありました。これは、ピンクが邑楽中学校なのです。それで緑色が長柄中学校、黄色が高島中学校、少しここののが中野なのですけれども、この3校を足して一番最初の昭和43年の893人の邑楽中学校ができた

のです。それから、だんだん、だんだん減り続けまして、またベビーブームでふえた。ふえてしまっ  
てしょうがないということで、先ほどお話ししたように昭和60年に南中学校ができて、この緑の  
部分が南中学校なのです。ピンクは現在の邑楽中学校で減り続けています。今のピンクと緑を足し  
ても当初のときに達していない、非常に少なくなっているということが、これでわかると思うので  
す。ぜひもう一度よくごらんになっていただけますか。

今お話ししたように、非常に子供が少なくなり、クラス数も少なくなり、あるいは部活動するの  
にも支障があるということでもあります。

それで、2番目の教育施設のこれからの活用についてなのですが、第1番目の質問と関連するの  
ですけれども、私自身は先ほどのお話のように非常に小規模化と言いますか、子供たちにとっても、  
あるいは先生方の負担にとっても非常に問題があるものですから、邑楽中学校に統合して、一つの  
学校にして、先ほどお話ししました今度は762人の学校ができます。ですから、893人で統合したの  
よりも130人ぐらい少ない統合中学校ができるのです。ですから、非常に適正規模になるわけです  
から、それを推し進めるということでもあります。

その中で、南中学校を邑楽中学校に統合した場合に、今度は南中学校全てがあいてくるわけです。  
校庭、建物、あるいはプール、体育館、いろいろな教室があいてくるわけです。その中で、これの  
最後のページにあると思うのですが、南中学校にどのような教室があるかということを見ますと、  
体育館、プールに始まって美術室、木工室、金工室、あるいは保健室、多目的ホール、そのほか調  
理室、理科室、生徒会の関係、被服室、音楽室、図書室、本当に中学校3年間の教育というものは  
子供たちが社会に巣立って一人前に、特に生活できるようなことを教え込むのが中学校3年間だ  
と思うのです。そういうもので社会教育にお使いになる文化施設、あるいはスポーツ施設、全てが充  
足しているのが中学校という組織体だと思うのです。

そういうことで、そうしますと南中を邑楽中に統合して適正な競争ができ、部活もみんないろ  
いろな運動ができ、あるいは文化面においてもできるということをした中で、南中の施設があき  
ますから、そこをどのように利用するか。現在3公民館、あるいは邑楽町には介護施設、あるいは福祉  
の施設関係がいっぱいあると思うのですけれども、そういうことについて現在の公民館、ある  
いはスポーツ施設があるわけですが、教育長、ちょっと述べていただけますか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

現状では、ぐんま少人数クラスプロジェクトというのを群馬県が進めておりまして、邑楽中の教  
室がちょっと足りない、合わせると足りない状況があります。

ですけれども、子供たちの成長に向けて、そしてよりよい教育に向けて統合、再編はもう避けて  
通れない、真剣に考えていかなければならない邑楽町の課題というふうには受けとめております。

万が一南中学校があいたときの使い方ということですが、これから少子高齢化は進むばかりですので、もし万が一あいてしまったら各年齢層、年代がともに活用できるようなコミュニティセンター的な施設になったら、大いに活用できるのかなというふうには考えております。

以上でございます。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今の教育長のお話ですと、非常に利便性もあるし、使い勝手もいいたろうし、そういう中で町民にとっての文化、あるいは趣味、そういうものに有効活用ができる。あるいは医療面、介護面、本当に全てに使えるのが中学校だと思うのです。中学校の既存の現在の設備、そういうものが整っているところだと思います。

ぜひそういうことで、既存の建物を産業研修会館も今の町公民館もヤングプラザも、あるいは福祉センターだとか、そういう施設を有効に利用する、その中にこの邑楽南中学校が統合すればあく、そこをそういうものとともに利用できれば私はいいのではないかなというふうに思っているわけです。

現在の公民館をあわせた施設の部屋数、それが約30あるのです。産業研修会館、あるいは町公民館、ヤングプラザ、あるいは体育施設を入れると30ちよいあるのですけれども、現在邑楽南中学校と公共の社会教育施設、そういうのと比べると邑楽南中学校の数がちょうどそれに匹敵するぐらいなのです。それで、なぜその辺が本当に社会教育に適しているかということは先ほどお話ししました各種教育、人間が生きていく上で学ばなければならない、あるいは生涯を通じてそういうものに取り組んでいって、健康管理だとか教育、自分の心身を鍛えるとか、そういうのに役立つ施設があるわけです。

ですから、そういうのに活用していかなければと思うのですけれども、このように古い建物ですとランニングコスト等もかかってきます。新しい建物でも償却やランニングコストはかかるのですけれども、古い建物は幾分か余計にかかると思うのですけれども、初期投資が少ない金額で済むということで、今度町側のそういう利活用するということを考えた場合に、現在そういうものがあつたとしたらすぐに使えるということができるとなれば町長はどのようにお考えか、お聞かせいただきたいと思います。それは、福祉施設も含めてで結構ですから。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 例えばということでのお尋ねですけれども、施設全てに言えるわけですけれども、それぞれ目的に合った考え方に基づいて施設整備がされているわけです。

今学校、具体的に南中学校というようなお話ですけれども、これは教育的な向上を図るためにつくられたということです。それを今例えばどう扱うかということは、先ほどの午前中の答弁にもありましたけれども、今現在アンケートをとって、その状況がどうなるかということの現状の分析を

するというような教育長のお答えもありました。それらの状況を踏まえた中で、ただいまも教育長が申しあげましたけれども、万が一という話もありましたが、そのような状況になった場合にはコミュニティセンターというような考え方も一つの考え方でしょうというふうなお答えをいたしましたけれども、私自身はそういうことであれば、やはりコミュニティセンターも一つの考え方、それから多目的に多くの方に使われるような状況というのも必要ではないかというふうに思っておりますが、あくまでも例えばの話ということでお答えをさせていただきます。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今町長がアンケート等をとった上でのお話ということでなさいましたが、先ほどもお話ししましたようにアンケートのとり方が偏っているのです。現在を直視し、あるいは将来を見越し、過去どういふのであったということを全てを保護者、生徒、あるいは地域の方々にはっきり明らかにして、それでアンケートをとらなかつたら客観的な答えは出てきません。教育長がとったアンケートは客観的にはなっていないと思います。

そういうことで、ぜひ原点に立ち返って教育施設の利活用について、いろいろと考えていただければと思います。土地もあります。建物もあります。施設は全て整っております。子供たちが社会に出て立派に生活ができ、自活できるように客観的な判断もでき、体力もつき、そういうものが中学校だと思しますので、ぜひ教育施設のこれからの活用について今後考えていただきたいと思します。

行政にとっては、今のように財政が逼迫しています。人口が減っています。子供が少なくなっています。そういうことを考えたら、ぜひそういう余った施設の活用も大事かと思うのですが、町長いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 余った施設ということになれば、有効に活用していくということにつきるかなと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 有効に活用するなんてごく当たり前なのですけれども、それを活用して呂楽町がますます元気になるように、お金をかけずに有効活用。ですから、公民館ホールの件も出ていますけれども、そんな初期投資は要らない、その初期投資分はほかのインフラ整備に回せるということがあると思いますので、ぜひ前向きに考え直していただければと思います。

それで、続いて3番目の町民無視で強行する町民ホール、公民館ホールの建設についてということで質問をさせていただきます。

まず、呂楽町は独立した行政、地方自治体でありまして、その中で総合計画を立てながら、では今後どうしていくかということを検討し、計画を立てて実施しているわけですが、今回の中

中央公民館ホールについては総合計画の第三次からのというのですか、第三次、第四次、第五次と載っていきまして、町長は第五次のときから首長かと思うのです。第四次のときも首長ですか、第五次からですね。町長として。そういうことで、計画が第五次ができてはいるわけですが、やはり総合計画は理想の形の計画をどこの自治体も載せていると思うのです。多分に漏れず邑楽町もそのようだと思うのです。そういう中で、第三次のころの経済、財政、あるいは町の町政、町民の数とか子供の関係だとか、今とは全然違うと思うのです。

ですから、首長として邑楽町を牽引していくわけですから、第五次の計画に当たっては、やはりローリングプランを立てて、つくって、ローリングをしながら今の邑楽町に見合った総合計画の実行、見直し、そういうの必要かと思うのです。それを金子正一町長はローリングを一切せずに、人口を見れば目標に全然到達しない、逆に減っている状態でありながら、過去こういうプランに載っているわけだから、過去計画に公民館ホールが、公民館が載っているわけだから、今実行しようというのはちょっと邑楽町の先頭に立って邑楽町をどうするというのを考えた場合に、議会として、議員として、はい、そうですというわけにいかないと思うのですが、その見直しということについてはこれまで考えたことはなかったのですか、教えてください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 総合計画は、10カ年を一つの節目として第五次を今進めて、平成27年にはその目標年度ということになるわけです。平成26年度から準備段階に入りまして、第六次総合計画を考えていくという準備段階に入っています。

この計画は、前期後期に分けてその見直しもやっておりますし、あわせてローリングの調査と言いますか、それらを十分踏まえた中で、その計画に基づいた計画が達成できるようにということで行っているわけでもありますので、見直し等々についても当然含めた中で検討して事業を進めているということになるわけです。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長に就任して以来毎年毎年、毎月毎月人口が減り続けていますけれども、そういう中でなぜ見直しという考えが浮かばないのか。現実には人口が減っている、高齢化している、少子化している、学校の児童生徒数は減っている、そういう中で第1次ベビーブーム、第2次、第3次、そういうことで現在1歳児が177人しかいないのです。そういうことを考えたときに、ローリングが必要だということを強く意識しなかったかどうか。していれば、今のようなこのように町民無視の中央公民館建設、ホール建設はないと思うのですけれども、いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 見直し、ローリングについてはその時期にあって行っているということは先ほど申

上げました。

さて、昨日の一般質問の中でもありましたが、少子高齢化ということでもあります。そういう中で、今具体的に中央公民館の関係で町民を無視した建設を進めるべきでないというようなお尋ねですけども、私は町民を無視して行っているつもりはありませんし、皆さんの理解をいただいて進めているということになります。

具体的な例を申し上げますと、この中央公民館の建設については議員の皆さんから一日も早く建設するよにということで、社会教育施設整備基金を設立していただきました。このあらわれは、議員の皆さんもぜひこの中央公民館の建設に向けて頑張りなさいというような意思表示だというふうに私自身受けとめておりますし、過去にも多くの皆さんからの請願、要望等があったということ踏まえれば、私の責任としては一日も早く何とか成就させていきたいと、そのように思っておりますので、決して町民の皆さんを無視してこの計画を進めているつもりはございません。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 どうしてそういう言葉が出てくるか。現実に公民館ホール、ホール付きの中央公民館をつくるということは、もう議会がどうこうの前に走っていました。人口は減り続けていました。なぜそういう時期に町民の考え方、町民の要望、あるいは町民が客観的に見て東毛地域の、あるいは両毛地域の公共施設の相互利用等があるわけです。

先ほど学校の統廃合のこともありましたけれども、そういう客観的な事実を町民の皆さんに教えてあげて、町民はよく知っているようで知りませんから教えてあげて、現在こういうような状態に邑楽町が置かれているのだが、公共施設、第五次総合計画にもこういうふうに乗せてあるのだが、人口が減り続けているのだが、子供が少なくなっている、高齢化しているのだがどうしたらいいか。やはり人生においては生まれたときから成長期、また終末期、老後の後期高齢者から介護に至る、その生まれたときの成長期と後期高齢者以降の終末期においては、やはり公がいろいろな面倒を見てやるのが、私は筋だと思うのです。15歳から65歳まで一生懸命働いて、その後特にお金が、表現は悪いのですけれども、後ろ向き、拡大再生産にならない高齢者の医療、あるいは介護については真剣に考えなければならない。そういう中であって、町長が第五次総合計画に乗っていて、今の話ですと中抜きで議会にかかってきてしまっているわけです。中央公民館建設検討委員会も町長の意向で、これありきの状態で中央公民館建設検討委員会のほうにかかっているわけですから、それ以前の問題が私は足りないと言っているのです。

町長の選挙のときも同じです。ゼロ円というのが、こういうことでこうなのだというのを町民に示さないで町長選挙に提示しました。あるいは経歴に関してもそうです。自分の経歴、労働組合役員をした、自治労のトップを務めた、そういうのは伏せていました。そうでなくて全てを明らかにして物事を実行する。第5次総合計画もそうです。それをして、では意向がこうだからとやったとしたら、町長はどんな結果が、これのちょっと前までの結果としてどんなのが出たと思いますか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども議員の質問の中に、この公民館の問題は第三次総合計画から理想に向かって計画はされていたというようなご意見がありました。

この総合計画というのは、議会の皆さんにお諮りをして議決をいただいて進めているものなので、なので、議員はどう理解されているかわかりませんが、やはりそういった町の将来像を考えた総合計画の中に位置づけをされているということを考えれば、私はこの成就をする、目標に向かって進めていくということが、私たちに与えられた責務ではないかというふうに思っています。したがって、やはりこれは中央公民館の問題だけではなくして、町全体の町民の皆さんにかかわる全てのことについての計画が盛られている、そのことを一つ一つ計画に基づいて進めていけるように努力をして今日に至っているわけですので、その一つが今言われた中央公民館でもありますが、昨日もいろいろ議員の皆さんからご意見をいただきました。これらも全てそういったことを踏まえて行っているということでもありますので、ぜひご理解をいただきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢議員に申し上げます。

議会としては、基金を積み立ててこの中央公民館をつくるということについては可決しています。ということは、皆さん賛成なのです。あなたの意見としては反対なのでしょうけれども、議会の総意ではありませんので、それを念頭に置いて発言してください。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私、この件につきましては邑楽町の現状、現実に置かれているこの高齢化、少子化ということを財政的にも、あるいは人員的にもということを考えると大変だということで、平成24年9月の議会に公民館ホールの問題で、ホールつきの公民館建設を実行するに当たってということでお話がありましたから、私はアンケートをしっかりとって、東毛地域、両毛地域の各公共施設の利用状況を上げれば大泉町の文化むら、千代田町の町民プラザ、あるいは館林市の芸術ホール、文化会館、あるいは太田市の市民会館、そういうのを上げてアンケートをしっかりとって、それでやってくださいと言ったのです。なぜかというと、私それこそ個人的に考えますと、アンケートをとったならば邑楽町民2万7,000人のうちのいかにゴサインを出すか。ちょっと慎重に考えて、健常者、しっかり出かけることのできる方は他市町の施設、他市町も近いのですから、二、三分で行ける、遠い方でも15分かけると行けるのです。介護されている方はそうはいかないですけども、健常者はそれができるのです。

ですから、しっかり現状を説明してアンケートをとるよということ町長にお話ししました。覚えていますか。

それで、そのときに町長の答弁は、担当者が調整をして協議していくということで、当時お答えがありました。そのときアンケートの件についてどのようなことをなさいましたか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 このアンケートをとるかからないかということについては、ほかの議員からもそのようなご質問を受けたことがあります。そのときに、私はアンケートをとる考え方はありませんというふうに申し上げました。

したがって、担当のほうにも指示をしたことはありません。そのように考えております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、アンケートを担当に検討させて、それで調整させて、その後協議していくということで、担当の生涯学習課長に指示していないではないですか。したのですか、アンケートの話をちゃんと。載せて。それでどうするのだということを指示しましたか、していないでしょう。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 アンケートをとる考え方がないということを申し上げました。

したがって、担当のほうには指示してありません。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、得意のうそつくのではないのだよ。

私は、平成25年6月にもアンケートの件で質問してあるのです。そのときは、またほかの議員も平成25年当初ごろからいろいろ話が出たと思うのですけれども、アンケートのことについて話がありました。平成25年6月の質問のときは、アンケートの徴集については、私は慎重にやりますということで答弁がありました。慎重にやるということだから、やるかもしれないということを私は個人的に頭に置いたのですが、その後の議員皆さんの質問についてはとりませんとか、そういうことになっていましたが、平成24年9月の一般質問では担当に検討させる、そういうことだったのです。していないでしょう。いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 繰り返しになりますけれども、先ほどお答えしたとおりでございます。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 指示がしてあるかしていないかなのです。私はやる気がないのだ云々ではないのです。私は、それをお聞きしているのです。

そうすることによって、担当課においてはまた動きが変わるわけなのです。それで、しっかり町民の意向、先ほどお話ししました東毛広域圏、あるいは両毛、そういうことを考えて、そのような

利用実態をちゃんと説明して、アンケートを担当が指示されていて前向きに考えれば、こんな結果にはならなかったと私は思うのです。なぜ担当に指示しなかったのですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 なぜということになれば、多くの町民の方からそれぞれ建設に向けて取り組んでほしいということがありました。

それと、昨日もお答えしましたけれども、大分前になりますけれども、町民の皆さんから議会に対して請願が出されて、その請願を全会一致で採択をされたということもあります。したがって、先ほどの総合計画の計画もありますけれども、そのようなことを考えたときに、まず町民の皆さんから認めてもらっているという判断に立って建設に向けて努力しているものですから、そのような考え方で指示しなかったということです。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 このある意味世紀の大事業、実行されれば大事業になると思うのです。

庁舎が20億円で、20億円かけるわけですから。これだけ多くの財を投じてやる事業がありましたか。そういうことを考えたら、アンケートをとるのは当然。また、現実に利用している方々、それが頭数で町民の何割いらっしゃいますか。リピーターではなくて。何回も何回も使う方ではなくて。だとしたら、当然長期総合計画に載っていますけれども、ローリングをして、見直しをして、人口が。だって、町長になってから毎年毎年人口が減っているのです。ふやすことをしていないのです。それで、行政改革だ、財政改革だとおっしゃいますけれども、町民のためになる邑楽町行政にするのだということはあるけれども、その中で課、係をふやしたり、今しているわけです。それが、今の邑楽町に、町民にぴったり合った施策だと思いますか。

特に、そういう大きな事業をやると償却はあります。あるいは保全もあります。ランニングコストもかかります。それで、現実に使っている利用なさる方は邑楽町のほんの一部の方々。だとしたらローリングするのは当然でしょう。見直しをするのは当然でしょう。なぜ見直しを怠ったのですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員が言われますように、大変な費用負担を伴うものです。全て町民の皆さんのご理解をいただく中で、お預かりした税金を大事に使わせていただくことが必要です。

昨日も申し上げましたが、この事業に取り組むのに当初は全額を町費負担ということで、他の依存財源はないでしょうという考え方から進んできたわけでありましてけれども、るる説明したとおり、これにかかわる国の都市再生整備計画事業ということに合致するということで、総事業費20億円うち4割8億円が国のほうから補助されるというような見込みもあるわけです。したがって、私は国、

県の依存財源を十二分に活用させていただいて、少しでも町民の皆さんの費用負担が少なくなるような事業執行をしていきたいということで奔走しているわけでもあります。

さて、その施設を利用されている方が少ないのではないかというふうなお話がありました。私は、そうは思いません。現実には現在ある町公民館、ヤングプラザ、産業研修会館3館の利用実態を見ても、多くの皆さんが利用して、まさに生涯学習の拠点としての場所で生き生きと取り組んでいる。私は、生涯勉強、生涯自分の持っているものを出すことによって、生き生きと健康で過ごせるというような状況も多くあると思います。それをこれからも子供たちのためにそういった場所を提供する、提供してやるということも大事な仕事の一つだというふうに思っています。

したがって、これは議員とちょっと意見が合いませんけれども、ぜひ大きな気持ちになって町民の皆さんのための事業と捉えていただいて、ご協力をお願いしたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 社会教育施設、今現在も邑楽町にありますけれども、そういう分かれている施設を合計すると部屋数、室数でいくと30からあるのです。産業研修会館、共同福祉施設、それと町公民館、ヤングプラザ、そういうことで30あるのです。それで、現実先ほどお話ししました南中学校が当初から比較すると生徒数が半減している、そういう中であってはやはり早急に邑楽中に統合。統合しても過去よりも200人も少ないわけですから、ですから統合して満遍なく子供たちに教育を受ける機会を与える。文化にしてもスポーツにしても勉強にしても、そういうのが必要かと思うのです。

そういう中で、3公民館、邑楽町公民館、ヤングプラザ、産業研修会館がありますけれども、30の部屋があって、現実には南中学校をこれ見れば30の教室があるのです。広いのから狭いのから、音楽室から芸術文化、美術、図書、スポーツ、そういう施設が整っていて、老朽化もしていないのです。よく町長が40年の耐用年数が来ているからということでお話ししますけれども、それは耐用年数というのは単純に耐用年数が出してあるのですけれども、維持管理をしっかり、メンテナンスをしっかりしていれば1.5倍、1.7倍長もちさせられるのです。長く利用できるのです。

それで、南中学校を見れば、開校が昭和60年でしたか。そうすると……

〔「質疑の内容が違うぞ」と呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 そんなことない。

そうすると、まだまだ今の倍ぐらい、これまでの倍ぐらい利用もできるわけですから、公民館でそういういろいろなことをやっていたのを一極に集めてということは、私は中学校をそのように活用すれば十分足りるというふうに考えています。

〔「南中の子供が傷つくよ」と呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 それは、周りの親が悪いのだ。

それは、先ほど言った東毛地区、あるいは両毛地区のことを考えれば、利用頻度を考えれば十分

呂楽町にとってはローコストで社会教育の施設の整備ができる。また、運動場もありますから、各行政区にとってはあそこで行政区単位の運動会もすることができます。

また、健康増進のためにプールも利用できます。雨や夜間に体育館も利用できます。ですから、ぜひ議会で議決をした、いろいろありますけれども考えを変えていただいて、平成26年度予算では7,000万円からの基本計画、あるいは実施計画の費用として盛り込みましたが、ぜひ考え直していただいて、また町民の意向を確認とっていただいて、議員ももちろんです。多分皆さんだって町民と会う機会があれば、それをちゃんと説明したならば、きっとそれは要らないです。これだけ高齢化している社会、呂楽町の将来を見た場合にいろいろ生涯学習は必要です。生涯の体力増強は必要です。ことを考えたときに、公民館ホールでなく、特にホールでなく、南中学校を利活用する、それをお話ししたならば、こぞって賛成すると思います。

ですから、ぜひ事業は、予算は組んだにしても、事業は延ばしてもいいのです。また、町民の意向を聞きながら、ではローリングしてもいいのです。ですから、もう一度考え直してみていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員の意見として承っておきます。

なお、平成26年度予算には今言われましたような予算も計上してありますので、先ほど私のほうからお答えをしたことに基づいて、議員にもぜひご賛同いただきますようによろしくお願ひしたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 平成26年度予算案には出てはいますが、その予算執行については町長の考えで、それは自由にできると思いますので、ぜひ執行しないで、よく考えて、それは南中学校の改装費に回してもいいわけですし、考えてみてください。そういうことを今頭に浮かぶかどうか。

町民の現在、あるいはこれから高齢化、少子化、子供たちの教育にはお金がいっぱいかかる。あるいは環境問題、そういうことを考えたときにいかがでしょうか、町長。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今現在、南中学校には258人の生徒が在籍しているわけです。この問題については、さきの一般質問でも教育長のほうからお答えした経緯もあると思います。やはり現時点でどうこうということについては、十分その利活用については今後の統廃合も含めてですけれども、将来的にわたりますので、今現在の南中学校の生徒への思いは十分勉学に邁進していただくことを願ひするのみでございます。

○本間恵治議長 小沢議員に申し上げます。

議会としては、基金の積み立ても皆さんの同意で賛成しました。それについては、つくるという方向で皆さん向いているのです。向いていないのはあなただけです。

それから、議会の総意で注文をつけて、費用もできるだけ安くやるようにと、いろんな制約をつけた中で町に議会として打診もしてあります。そして、今回の予算の上程になった経過があります。そのことを踏まえた中で、きちんと発言をしてください。そうでないと打ち切ります。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ぜび町長の英断を私は期待しています。7,000万円、あるいは予算執行、そういうことについて町長の判断で実行できると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また、邑楽町の地域再生の補助金8億円ですか、それについてはもともとは公民館建設でなくも、本来ならば公民館については、ホールについては補助金は出ないと、そういうことだったけれども、今の政府が経済復興、そういうことを考えて、ああいうような行政に対する裁量権を余計に与えているわけですがけれども、邑楽町については多々良沼、あるいは中野沼、あるいは河川があります。孫兵衛川、新堀川だ、多々良川だ、あります。そういうところの用排水路が非常に汚れております。メダカもドジョウも住めないような状態なのです。ですから、邑楽町地域再生と言いますか、基盤整備ということであれば、そのお金を中央省庁に、国土交通省に町長自身が出向いて、実はこういう計画であったが諸般の事情、東毛地域の相互利用の関係、いろいろ考えたときはこの箱物でなく邑楽町町民全2万7,000町民が、今2万7,000人を切った面もありますけれども、それが本当に健やかに気持ちよく生活ができるように、こういう方向に予算をかえたいのだがということで国に要望してみてください。

それは、町長の仕事として決まったわけですから、いや、でもよく考えると、やはりこの邑楽町2万7,000町民、特に高齢化している邑楽町、また少子化している邑楽町、財政が厳しい邑楽町において見直しをしたいのだということで、国に当たる気持ちがあるかどうか、お聞きしたいと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まことに申しわけありませんが、その考え方はございません。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 日本中がなのですが、来年の春は統一地方選挙があります。また、邑楽町にあつては、来年の12月には首長の選挙もあると思います。

そういうことを考えたときに、やはり町民の気持ち、町民が欲するもの、それを強力に実行するのが邑楽町の行政であり、町長かと思うのです。ぜび邑楽町一般町民、一部の方ではなく一般町民の視点に立って、邑楽町町政の牽引を町長みずからトップセールスをしながら推進していただければと思います。ぜび課長もよろしくお願ひしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○本間恵治議長 これをもちまして一般質問を終結します。

---

◎散会の宣告

○本間恵治議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす12日から17日までの6日間は議案調査及び各常任委員会開催等のため本会議を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○本間恵治議長 異議なしと認めます。

よって、あす12日から17日までの6日間は、議案調査及び各常任委員会開催等のため休会とすることに決定しました。

来る18日は、午前10時から会議を開き、平成26年度各会計の予算について審議を行います。

本日は、これにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午後 1時57分 散会〕